

府立高校が果たすべき役割

(1) 府立高校の強み【P3】

- ① 豊富な教育ストック
- ② 幅広い学びの提供
- ③ 多様性の尊重
- ④ 地域や外部機関とのつながり

(2) 府立高校の将来像を考える際の基本的な視点【P4】

- 「卓越性を活かす」
- 「公平性を備える」
- 「多様性を尊重する」

(3) 人材育成の方向【P5】

- ① グローバル社会で活躍できるリーダー層の育成
- ② 大阪の多様な社会経済基盤を支える人づくり
- ③ 置かれている環境にかかわらず、社会的・経済的に自立して生きていく人づくり

施策の方向性

(1) 府立高校の充実【P6~9】

- ① 社会のリーダー層やグローバル人材に必要な資質・能力の育成
- 英語に接する機会の増加 ●異文化理解の推進とコミュニケーション能力、チャレンジ精神の育成
 - 自らの意見を述べる力の伸長 ●子どもたち自身が探究していく環境づくり
 - 国際バカロアの趣旨を踏まえたコースやプログラムづくりの検討
 - グローバルリーダーズ・ハイスクール対象校の拡大、文理学科単独校への移行の検討 など

② 多様な学習と幅広い進路選択が可能となる学習メニューの提供

- 国際化・情報化の進展への対応 ●外部人材の活用
- 授業評価を活用した授業改善やカリキュラム研究 など

③ 「ものづくり」をはじめとする職業人の育成

- 資格取得や進学生徒への学習支援、学校ごとの特色化
- 実社会とつながる体験的な学びの充実 など

④ 「セーフティネット」の整備と「セカンドチャンス」の提供

- 高校就学の機会の確保と、学び直しの学習内容を提供する「セーフティネット」の整備
- 学び直しの教育効果をあげる工夫、専門性の高いスキルやノウハウを有する人材の必要性
- 中途退学者等に対して高校で学ぶ機会を設ける「セカンドチャンス」の充実
- ソーシャルスキルトレーニングなど、学び直しを支援するための取組み など

⑤ キャリア教育の推進とチャレンジ精神の育成

- すべての生徒に対する、将来を見通したキャリア教育の実施
- インバ外的な教材や外部人材の活用・配置 ●基礎的な学力の定着 など

⑥ 自立を支援する教育カリキュラム

- スクールカウンセラーの増員、スクールソーシャルワーカーの配置など、学校のサポート体制の充実
- 「自立支援推進校」や「共生推進校」の推進 ●高校と支援学校の併置の検討 など

⑦ つながりをはぐむ学校づくり

- 小中学校との連携での高校生の主体的な活動
- 教員相互の授業見学などによる校種間連携の強化
- 高大連携、地域や外部の機関・人材との連携 ●中高一貫教育のあり方を研究 など

⑧ 学習環境の整備

- 社会や生活環境の変化に応じた施設・設備の整備
- ICT機器の充実・活用、活用方法についての専門的な支援体制づくり など

⑨ 教職員の資質・能力の向上

- 教育の充実と効果的な指導をめざした教職員の資質・能力の向上
- 組織的な研修体制と学校運営 など

(2) 活力ある学校づくりをめざした府立高校の再編整備【P10~12】

① 基本的な考え方

- 限られた資源を集約し、全体として活力ある学校づくり
- 教育の普及と就学機会の確保を前提に、教育内容の充実と学校数の精査を両輪で進める

② 再編整備の進め方

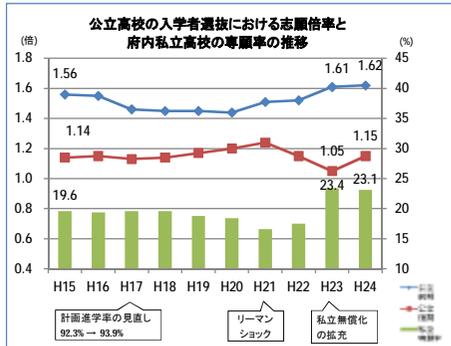
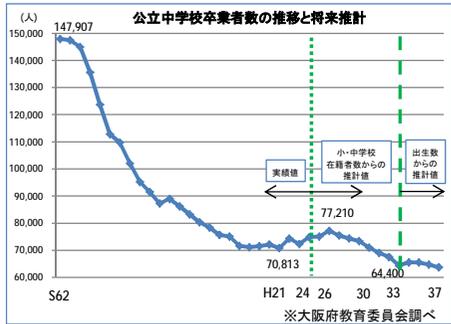
- 〈府域全体〉
- 多くの不確定要素があるため、学校数については計画期間以降も見直ししながら慎重に検討
 - 普通科の学級規模は6~8学級を基本に、学校の実情に沿って柔軟に運用 など
- 〈個別校〉
- 学校の特色や地域の特性を踏まえて配置のあり方を検討
 - 各学校の特色・志願動向のみならず、学校の役割・使命遂行の観点で評価
 - 学校配置の地域バランス：一定の地域単位で検証 など

③ 教育内容の充実

- 既設の学科の検証、教育内容の充実、評価指標の設定
 - 積極的な情報発信 など
- 〈普通科高校〉
- 教育活動の充実等による学校の特色づくりの推進
 - 学校の使命(ミッション)の再定義と、明確なメッセージの発信 など
- 〈普通科総合選択制〉
- 教育課程の大幅な変更や総合学科等への改編などによる発展的な整理 など
- 〈専門高校・専門学科〉
- 工科高校：高大連携・実践的技術養成・地域産業連携を重点化
 - 農業高校：「農」と「食」を繋ぐカリキュラム開発、大学も含めた生徒の希望進路を実現
 - 国際系の学科：名称の統一や教育課程の見直しの検討
 - 新たな学科：これからの社会ニーズに応じて設置を検討 など
- 〈総合学科〉
- キャリア教育、多様な科目展開、授業方法の工夫などのさらなる充実
 - 人的・物的支援に見合った教育活動の実施についての検証 など
- 〈「セーフティネット」の役割を担う学校〉
- 府立高校全体の中で「セーフティネット」の役割を担う学校の位置付けを明確化
 - クリエイティブスクール：生徒ニーズに的確に対応するため、枠組みを再構築
 - 通信制の課程：受検者ニーズに応えられるよう拡充
 - 夜間定時制の課程：今後の変化を慎重に見守り、必要に応じて対応方策を検討 など

(3) 公平でわかりやすい入学者選抜の改善【P13】

- 新制度の定着状況を見極める必要
- 制度改善の際には受検者ニーズや動向を踏まえ、改めて制度の検証・検討
- 制度改善の際には、制度の安定性や中学校教育に与える影響に十分配慮 など



(注1)「公立後期」は、全日制普通科(単位制除く)とクリエイティブスクールの合計
 (注2) 専願率 = 府内公立中学校卒業生のうち府内私立高校専願の志願者数 / 公立中学校卒業生数
 ※大阪府教育委員会調べ
 私立専願率については、大阪私立中学校高等学校連合会調べ

学校種別	学科	学校数
普通科高校 (109校)	普通科	28校
	専門コース設置	29校
	専門学科	10校
	文理学科	10校
	体育科	6校
	国際教育科	6校
	体育科	2校
	芸術文化科	1校
	音楽科	1校
	総合選択制	10校
総合学科高校 (15校)	単独制	4校
	総合センター附属高校	1校
専門高校 (15校)	農業	2校
	工科	9校
クリエイティブスクール (6校)	国際	3校
	総合選択制	1校
民間委託設置校 (15校)	総合選択制	1校
	通信制高校	1校
連携型中高一貫校 (2校)	総合選択制	1校
	通信制	1校

(注) 網掛け部分は「大阪の教育力」向上プラン(前期計画期間: H21~25)に基づき設置したもののうち、専門コース設置は22校、体育科及び音楽科は1校のみ(該当)。また、中高一貫校は再掲扱い。なお、専門コースは、文理学科併置校2校を除く。
 ※大阪府教育委員会調べ